

日光市街地地区

◆目標とする街並み

門前町を感じさせる風格とにぎわいのある街並み

◆まちづくりの心得

- 心得1 聖域の門前町として落ち着きある街並みをつくりましょう
- 心得2 歩いて楽しい、にぎわいの門前町を演出しましょう
- 心得3 地域固有の伝統文化を大切にしましょう

◆まちづくりの作法

- 作法1 建物等には、『和』のデザインを活用しましょう
- 作法2 光沢感やつやのある素材は避け、自然素材を積極的に活用しましょう
- 作法3 建物を道路から後退させて配置しましょう
- 作法4 建物の低層部は、店舗を連続させましょう
- 作法5 『和』の街並みに調和した看板にしましょう
- 作法6 伝統文化を感じさせる地域資源を街並みづくりに活かしましょう
- 作法7 魅力的な店先空間を演出しましょう
- 作法8 「和」の街並みに調和した美しい夜景を演出しましょう

※全地区共通のガイドラインと併せてご活用下さい。

※日光市街地地区は、日光市景観計画において、「景観計画重点区域」に指定され、建築等に関する行為の制限が設けられています。建物等をつくる際には、その内容を遵守した上で、本ガイドラインをご活用下さい。

◆目標とする街並み ～地区の皆さんが描く街並みの将来像～

門前町を感じさせる 風格とにぎわいのある街並み

日光市街地地区は、世界遺産「日光の社寺」の門前町として栄えてきた日光地域の中心市街地です。長い歴史に培われた伝統文化が根付き、信仰の聖地へと誘う空間として今も多くの人を迎えています。

様々な「いのり」が集まる神聖な空間としての「風格」と、多くの人を楽しめる「にぎわい」のあるまちを目指しましょう。

◆日光市街地地区の景観資源 ～日光市街地地区で大切にしていきたいもの～



世界遺産「日光の社寺」をはじめとする歴史的建造物群(神橋)



歴史を感じさせる街並み



玄関口となる東武日光駅・JR日光駅



四季の変化が美しい憾満ヶ淵



田母沢御用邸記念公園



日光金谷ホテル



日光総合支所

心得 1

聖域の門前町として落ち着いた街並みをつくりましょう

日光市街地地区は、世界遺産『日光の社寺』を中心とした聖域の門前町です。荘厳で神秘性のある空間へと誘うゲート空間として、期待感を抱かせるとともに、聖域の持つ厳かな雰囲気尊重した景観づくりが求められます。そこで、「和」を基調とした、落ち着いた街並みをつくりましょう。

心得 2

歩いて楽しい、にぎわいの門前町を演出しましょう

日光市街地地区は、門前町として栄えた歴史があり、現在でも、「日光の社寺」へと、多くの来訪者が往来します。

そこで、門前町らしい魅力的な沿道空間を演出し、来訪者の回遊性を高めることで、にぎわいある雰囲気を創出しましょう。

心得 3

地域固有の伝統文化を大切にしましょう

日光市街地地区は、門前町にふさわしい歴史・伝統を感じさせるものや、聖地である「日光の社寺」を意識させるような神や信仰の存在など、個性的な伝統文化が培われ、今も生活に根付いています。

これらを様々な形で街並みの中に活かし、聖域の門前町としての独特の雰囲気を高めていきましょう。

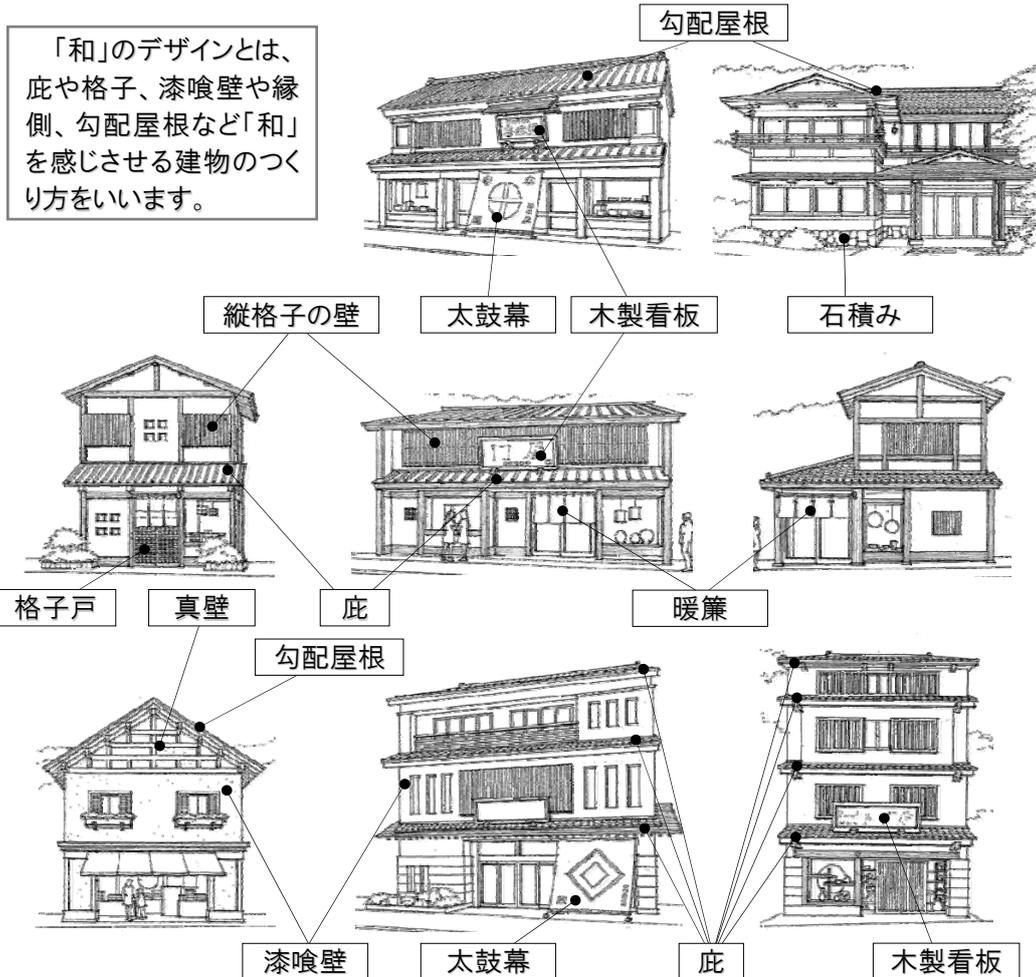
◆まちづくりの作法 ～「目標とする街並み」を実現するための具体的な方法～



作法1 建物等には、『和』のデザインを活用しましょう

■『和』のデザイン

本地区の建物は、門前町にふさわしい「和」を基調としたデザインにしましょう。地区内に現存している「和風」の建築物を参考にしながら、全体として調和した建築物が並ぶ街並みにしていきます。



■街並みの調和と連続性

国道119号、国道120号、県道栗山日光線、御用邸正門前通りの沿道の建物については、付け庇や付け柱などの工夫をすることで、街並みの連続性を創出します。(※景観条例より)これにより、聖域への期待感を高めることにもつながります。

また、建物の軒の高さは15m以下とし、屋上に設置される装飾等については、建物本体と調和のとれたものとします。(※景観条例より)



▲庇の高さが揃っていることで、整然さと連続性を感じさせます



作法 2

光沢感やつやのある素材は避け、 自然素材を積極的に活用しましょう

■自然素材の効果

日光の歴史は世界に誇れる貴重なものであり、その魅力を伝えるためにも、まちが歩んできた時の流れを感じられる景観づくりが大切です。

自然素材は時間が経てば経つほど、その風合いや味わいが増し、色や質感が風景に、人に馴染んでいきます。特に、人が触れる部分(柱や手すり、扉・戸、ベンチなど)は、自然素材を使うことで時間の経過を肌で感じる事ができ、ものに対する愛着を深めることにつながります。

■自然素材と光

光沢感やつやのある素材は、光を受けてそのまま反射させるため、まぶしさを感じさせたり、局所的な明るさを与えますが、自然素材の多くは光を受け止めるため、より素材そのものの色合いや質感が感じられ、柔らかな明るさをもたらします。

■活用上の工夫

自然素材の活用が難しい場合は、色合いや材質などが自然素材に近い建材を用いる、表面の仕上げに趣向を凝らす、自然素材とうまく組み合わせる等の工夫をしましょう。

■地区内で自然素材を活用した建物の例



▲木造の建物



▲大谷石の石蔵



▲木造の建物



▲石積みと木造の建物

作法3 建物を道路から後退させて配置しましょう

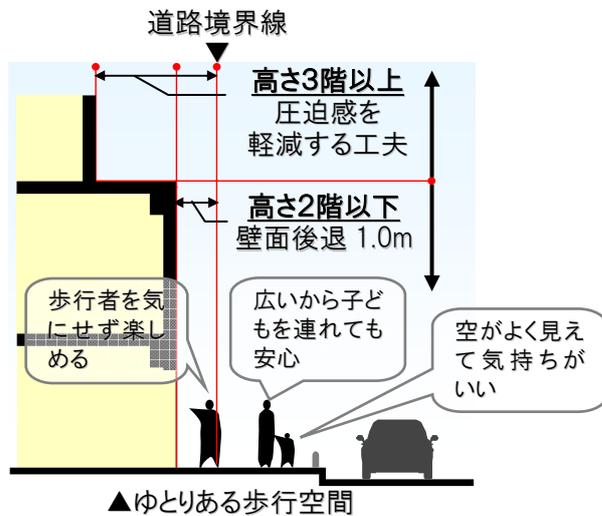
■ゆとりある歩行空間

多くの人々が往来する、にぎわいある駅前町として、例えば、“ウィンドウショッピングを楽しむ人が歩行者等の通行の妨げにならない”“ベビーカーや車椅子利用者も快適に通行できる”、こんな誰もが快適に歩ける環境を整え、回遊性を高めていきたいものです。

そこで、ゆとりある歩行空間を確保するため、建物を沿道から後退させて配置するよう努めましょう。

特に、国道119号、国道120号、県道栗山日光線、御用邸正門前通りの沿道の建物については、道路境界線から1.0m以上セットバックさせます。（※景観条例より）

また、建物の高さ3階以上の部分については、歩行空間における圧迫感を軽減させるために、形態や色彩などを工夫しましょう。



■後退部分のしつらえ方

壁面後退によって創出した空間をより魅力的に、より有効に活用できるよう、壁面後退によって創出した空間には、歩行者等の妨げになるような看板やその他工作物を設置しないようにしましょう。

また、壁面後退によって創出した空間の舗装は、歩道部分や隣接する敷地と同じような舗装にするとともに、段差をなくすことで、空間として一体感や連続性が生まれ、より広い印象を与えます。

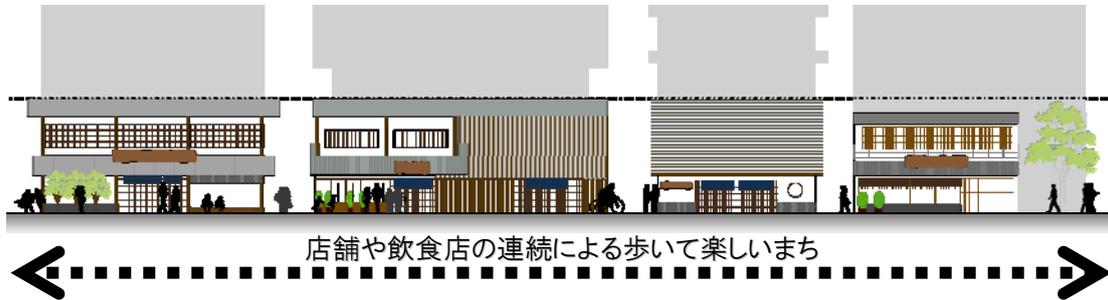




作法4 建物の低層部は、店舗を連続させましょう

■店舗の連続

沿道建物の低層部に、賑わいを創出する用途(店舗や飲食店等)を連続させることで、来街者等の回遊性を高め、歩いて楽しいまちの形成を図りましょう。



▲国道沿線



▲駅前空間



作法5 「和」の街並みに調和した看板にしましょう

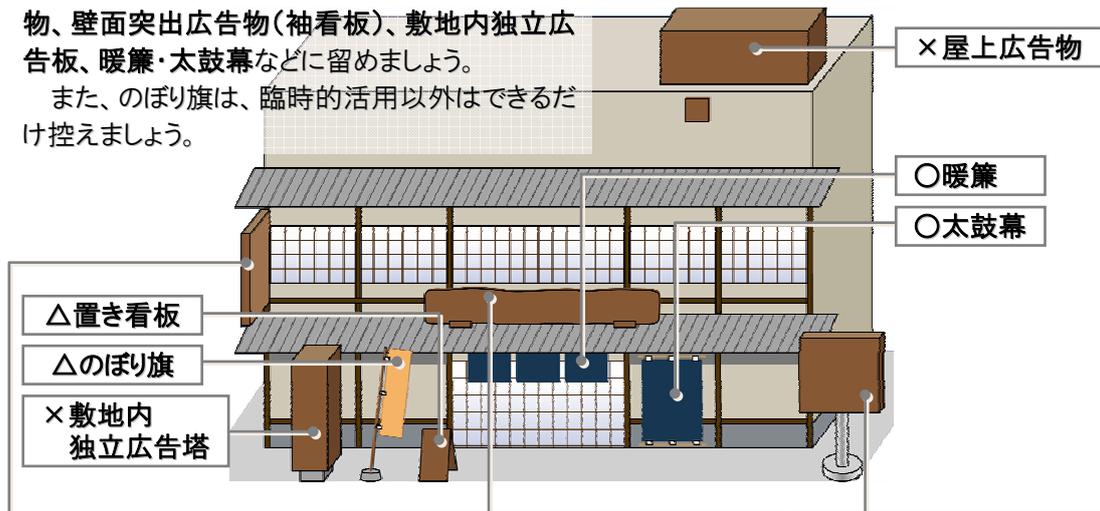
■屋外広告物の種類と位置と規模

看板は、お店の個性・魅力を表現するための要素です。しかし、乱立すれば美しい景観を損ねてしまうだけでなく、雑然とした看板類の中で、それぞれの個性がかえって分かりにくくなってしまいます。

日光市街地の看板は、看板の種類、設置面積、位置に配慮し、自然素材を活用した和風の街並みに調和したものとしましょう。

日光市街地の広告物の種類は、壁面広告物、壁面突出広告物(袖看板)、敷地内独立広告板、暖簾・太鼓幕などに留めましょう。

また、のぼり旗は、臨時的活用以外はできるだけ控えましょう。



○壁面突出広告物

- ・道路にはみ出さないようにしましょう。
- ・設置数は壁面1面あたり1つまでとしましょう

○壁面広告物

- ・開口部への掲出は避け、建築物からはみ出さないようにしましょう。
- ・設置数は壁面1面あたり1つまでとしましょう

○敷地内独立広告板

- ・道路から1m以上離して設置しましょう。
- ・設置数は敷地あたり1つまでとしましょう

(※以上、景観条例より)

■参考にしたい地区内の看板類



▲店先の暖簾



▲木製の壁面看板



▲木製の壁面突出看板



▲軒下の英語表記の壁面看板



作法 6

伝統文化を感じさせる地域資源を

街並みづくりに活かしましょう

■地域資源の活用イメージ例① <町印>

「町印」は、自治会単位で有する「町」の「紋」「印」です。町印は、地区内の伝統行事の際に、提灯や旗などにみられます。また、祭りの家体等のまん幕に使われている色も、各町の固有の色です。これらを活用し、個性あるまちづくりを進めましょう。



下鉢石町



松原町



上鉢石町



石屋町

【参考】町印の取り入れ方の例

町印は、各町のアイデンティティ(個性)を表現するものとして、色々な応用が考えられます。

- ・街路灯
- ・サイン(案内板)
- ・公共施設の外観
- ・番地プレート



▲御幸町家体庫の町印



▲板挽町家体庫の町印

■地域資源の活用イメージ例② <祭り>

日光市街地地区では、大小様々な祭りが行われています。これらの祭りは、地区のコミュニティの象徴であり、自治会を越えて共通に認識できるもので、今後も守り続けていくべき文化のひとつといえます。こうした人と人とを結びつける伝統文化を生活の中でより感じられるような工夫をしましょう。

【参考】家体の見せ方

弥生祭の華である町ごとにある家体の展示の仕方を工夫し、観光資源として活用していくことで、地域の歴史文化のさらなる普及と継承を図っています。



▲郷土センターに展示されている稲荷町本家体



▲シャッターに家体の絵が描かれた板挽町家体倉庫

■地域資源の活用イメージ例③ <石升>

西町地区の板挽町に、石升が並んでいる道があります。石升とは、近くの湧水を水源とし、自然石をくり抜いた升を石管で繋いだ大正時代の水道です。

構造は、勾配を利用した自然分流方式となっています。升が、流れ込む方の槽と溢れ出て次に流れ出て行く方の槽の2槽に分かれており、流れ込む方の槽を堰板で堰き止め、木栓を抜くと溜っていた水が流れ出て利用できるようになっています。また、木栓をして置くと堰から溢れた水が次の升に流れ込んで行き、この繰り返して水道としての仕組みが成り立っています。

現在は、飲用ではなく、野菜を洗うためなどに利用されています。

水がきれいな日光らしい、水を身近に感じられる貴重な景観として、大切にしていきたいです。



■地域資源の活用イメージ例④ <地域に伝わる神話や信仰>

日光市街地地区は、世界遺産「日光の社寺」を中心に、古くから多くの人々の信仰の聖地として、あるいは、星や風水などにまつわる神話が伝えられる場所として、荘厳さと神秘性のある空間を形成してきました。

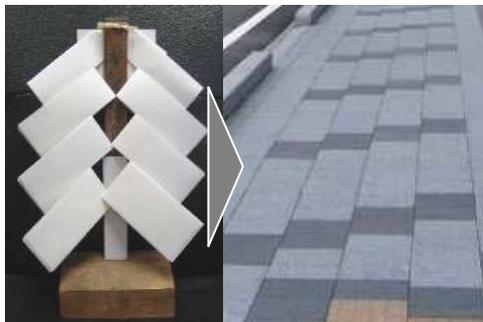
今後も、聖域の持つ厳かな雰囲気を持し、日光という場所との精神的なつながりをより身近に感じられるよう、象徴的な存在を街並みの中につけていきたいと思います。

【参考】龍・星座・御幣の活用

東町地区では、世界遺産「日光の社寺」や「日光という場所」と精神的な深い関わりを持つ「龍」と「星座」、祭りの際のしめ縄や社寺などの神聖な場に用いられる「御幣」を地区の個性を表現するものとして、街並みの中に活かしています。



▲星座を表現した石版



▲御幣を表現した舗装



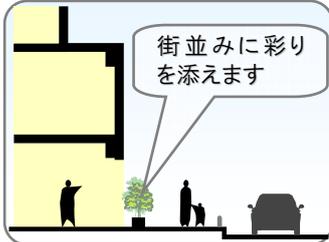
▲龍をモチーフにした街路灯



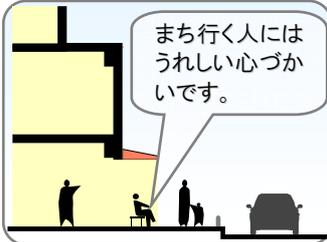
作法7 魅力的な店先空間を演出しましょう

■店先の演出

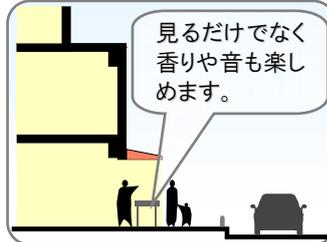
様々な方法で個々の店先を演出することで、魅力ある沿道空間をつくりましょう。



▲ 植栽による演出



▲ ベンチ等の設置による交流・憩いのスペースの確保



▲ 建物の中と外の視線をつなぐような開放的な店構え。

■地区内での店先の演出の例



▲ お店の特徴を表すものを設置して演出している



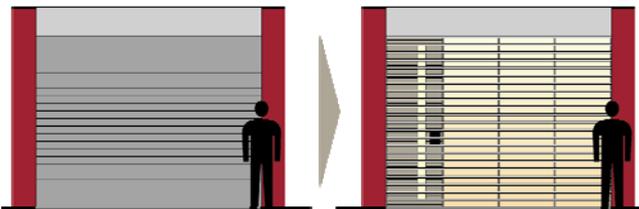
▲ 沿道から見える場所に設けられた休憩スペース。気軽に立ち寄り、お茶を飲むことができる。



▲ ガラスのファサードとすることで、建物内の魅力が沿道からも感じられる。

■閉じているときの考え方

お店を閉めているときも、閉鎖的なシャッターなどで隠してしまうのではなく、透過性のある仕様で、ショーウィンドウが見えたり、店内の照明が通りに漏れるようにすることで、商店街の連続性や魅力的な夜間景観を創出することができます。



▲ 夜景の演出にも寄与できるガラスのファサード



作法 8 「和」の街並みに調和した美しい夜景を演出しましょう

■魅力的な夜景の演出

門前町の夜間景観を魅力的なものとするため、各々の建物で「和」の街並みに調和した個性ある照明で演出しましょう。

照明を考える際は、電球色の光源やろうそくの灯りなど、温かみのある光で演出し、照明に用いる素材も、木や竹、和紙などを活用することで、より風情ある「和」の街並みに調和した夜景を演出しましょう。



▲和のデザインと調和した
掛け行灯



▲店先の置き行灯と
ファサドを魅せる間接照明



▲エントランスをやさしく照らす
間接照明



▲軒下を提灯で演出



▲特徴的なデザインの街灯と街並み

■地区内での灯りのイベント



▲まちづくりメインテーマである『祭(いのり)のまち』を感じさせる足下灯での演出(日光東町)



▲幻想的な雰囲気演出する日光キャンドルページェント(憾満ヶ淵化地蔵)